

【背景と目指す姿】

- 芳賀町稲下田地区の水田は区画が狭いうえに畑が混在し、生産性が低い。
- そこで、地区の将来を見据え、中間管理機構の活用による担い手への農地の集積とほ場整備を一体的に行う農地中間管理機構関連農地整備事業を県内で始めて導入し、収益性の高いキャベツやネギ等の露地野菜の産地化を進めることとなった。
- 産地化にあたっては、地元の担い手への集積に加え、民間企業の参入も促し、生産性の向上と販売力の強化を進めていく。

1 水田における露地野菜転換面積

現状(令和元(2019)年度):1.0ha ⇒ 目標(令和4(2022)年度):11.9ha

2 主な取組内容(令和2(2020)～令和4(2022)年度)

項目	具体的方策
農地集積・集約化	<ul style="list-style-type: none"> ・町の会議等で町内の個人生産者や集落営農組織に対し、露地野菜栽培を呼びかけ ・人・農地プランの重点支援地域に位置づけ、農地中間管理事業を有効活用 ・基盤整備事業の実施や栽培条件の整備など、担い手のニーズに即した整備
効率化・省力化	<ul style="list-style-type: none"> ・企業と連携した収穫・出荷調整作業の体制整備や雇用の創出 ・経営の発展段階に応じた機械化、省力化
加工・業務用需要への対応力強化	<ul style="list-style-type: none"> ・取引を安定的に継続するため、契約取引の経営的なメリット等を啓発 ・(有)ワールドファームと連携・協力を図り、既に取り引のある販売先や新たな加工・業務用野菜の優良な販売先を確保



芳賀町稲毛田地区におけるキャベツの栽培風景



企業を講師とした地域における勉強会